綜 説

滿 洲 族 の 研 究

. Anthropological studies on the manchus.

日本醫科大學教授 横 尾 安 夫
Yokoh Yasuo

昭和 18 年人類學雜誌 58 卷に發表した滿洲族の研究(豫報)の後に、滿洲在住の滿洲族計測例をまとめたものである。比較の便宜の爲、

吉林の回教徒と、旅順の支那人とを同時に擧げておく。どれも昭和 16 年乃至 18 年に計測したものである。

	滿 洲 人			吉林回教徒(99)	旅順支那人(83)
	吉林(100)	双城(100)	寧安(81)		
身 長	165.3±.54	164.4±.63	160.6±.62	165.3±.65	166.5±.72
頭 長	183.8±.59	181.3±.63	182.1±.67	183.4±.64	182.6±.60
頭 幅	161.5±.68	158.3±.57	156.4±.54	158.5±.57	158.4±.59
頭 高	122.9±.64	125.6±.63	124.9±.56	126.0±.61	127.6±.69
頬 弓 幅	144.2±.62	143.5±.46	141.0±.51	143.4±.52	143.6±.49
最小前頭幅	101.7±.51	102.7±.47	101.2±.51	103.4±.44	101.7±.54
下 顎 角 幅	108.5±.51	110.5±.54	107.1±.54	109.3±.56	107.9±.44
形 態 顔 高	128.7±.65	129.0±.59	128.3±.71	128.9±.60	128.5±.64
鼻 高	58.1±.34	58.8±.36	58.3±.38	59.9±.43	58.5±.37
鼻 幅	37.3±.29	36.4±.20	35.4±.27	37.3±.38	36.2±.23
内 背 幅	34.4±.28	34.6±.31	34.5±.29	33.3±.29	34.2±.31
頭 示 數	87.2±.38	87.4±.35	85.8±.42	86.5±.39	86.8±.41
頭長高示數	67.5±.40	69.3±.33	68.5±.32	68.7±.33	69.7±.32
頭幅高示數	77.5±.40	79.4±.39	79.1±.42	79.6±.41	80.6±.43
形態顔示數	89.4±.51	90.0±.45	89.8±.52	90.0±.46	89.6±.51
頭 顔 示 數	90.1±.33	90.7±.27	90.1±.26	90.5±.30	90.9±.32
頬前頭示數	70.8±.34	71.6±.29	71.4±.34	72.0±.27	70.8±.37
下顎角示數	75.5±.38	77.0±.36	75.0±.38	76.2±.30	75.1±.35
鼻 示 數	62.1±.53	62.1±.50	60.8±.57	62.3±.56	62.0±.46
内背幅示數	23.9±.18	24.1±.20	24.1±.18	23.2±.21	23.8±.27

滿洲族の身長は 164—165 cm で蒙古人より稍々上廻つてゐるが、一般にツングース族は低身¹⁾であるから、支那人との接觸によつて長身となつたのではあるまいかと、豫報で考察したのであるが、こゝに寧安の 160.6 cm といふ短身群を發見して、この考察に根據を得たように

思はれる。

豫報でも身長分布が頗る平坦であることを指摘したが、この豫報の厚和の例に、これと略々同じ平均身長²⁾の吉林と双城との 200 例を合せて 300 例につき分布を見ると、厚和の 100 例だけの場合と變化がない。

	極小 -149.9	小 150.0-159.9	少々小 160.0-163.9	中 164.0-166.9	少々大 167.0-169.9	大 170.0-179.9	極大 180.0-
(300)	4	54	63	61	61	52	5
%	1.3	18.0	21.0	20.3	20.3	17.3	1.7
新バルカ蒙 古人 (%)	0	17.4	31.7	24.3	14.7	11.0	0.9

蒙古人の平均身長は 164.0 cm であるから、以上のような分布を示すのは豫期されるが、滿洲族のように 165.0 cm の平均身長で「中」群が、「れと小」群や「少々大」群と同じ頻度であり、「小」群や「大」群でも此等中央群と近接してゐるのは、注目に値する。勿論上述の分布を示す区劃は全く任意的なもので、正しい分布曲線を意圖したものではないが、蒙古人の分布と比べて見て、蒙古人程に規則正しい分布を示さず、大小が混じてゐることが推測される。

吉林の回教徒も旅順の支那人も全體として滿洲族によく似て居り、身長も大差ない。旅順支那人は、北部支那人の分派と推測されるが、身長は河北や山東に比して低い。滿洲の支那人に一般にこのような傾向あることは既に指摘した。

頭長は 181.0 乃至 184.0 mm 頭幅は 156 乃至 161 mm を往來する。頭長がこのように小さくなるのは、滿洲族の外はオロッコやオロチに特有で、それ以外のツングース系には見られぬ。朝鮮北部でも 183 mm 前後に短縮してゐる。頭幅は、寧安の 156.4 mm が少しく小さくなつてゐるが、吉林の 161.5 mm や双城の 158.3 mm の平均値は、蒙古、土耳其系統につづく大で、アジア内陸に特有である。北鮮になると、狭い群も現はれて來、咸北 157.06 mm 咸南 156.27 mm は未だ 160 mm に近いが、平北の 152.32 mm や平南の 150.59 mm は南鮮と同じ大さとなる。滿洲族でも稀に頭幅の小さいものがあることは、豫報で述べた。

以上の如き頭長幅徑であるから、頭示數が人類頭部としては最大となるのは當然で、吉林や双城のように 87.0 という大きな平均示數となる。以上の頭部長幅徑の特異性は、吉林回教徒、旅順支那人でも例外ではない。北部支那人は一般に頭長これより大きく、頭幅これより小、從

つて頭示數が小さい。滿洲在住の支那人は此等河北、山東の特性を失つてゐるわけである。

頭高は 123 mm 乃至 126 mm 位で低い方であるが、蒙古人に比べると多少増加する様子がある。この傾きは厚和の滿洲族でも見られた。

頬弓幅は 141 乃至 144 mm で、蒙古人程に幅ひろくはない。從つて頭顔示數は 90.1 乃至 90.7 で、蒙古人の 93—94 に比べて可成り小さい。頭幅の大きいアジア内陸の民族で、これ程頬幅の小くなる民族は他に例が稀で、トルコ系のウィグルの 91.4 やイリ川沿のタランチの 91.7 等が幾分滿洲人の關係に似てゐるだけである。この點では、吉林回教徒や旅順支那人も同様である。

このように頬弓幅は小さいが、形態顔高は蒙古人と變りがない。その高徑 128—129 mm は蒙古人高徑と完全に一致する。故に形態顔示數 89—90 は蒙古人の 85—86 に比べて遙かに大きい。

下顎角幅も頬弓幅に應じて狭まつて居るが、下顎角示數では、蒙古人と異るところはない。

鼻高、鼻幅、及鼻示數を見るに、鼻幅に於て幾分か蒙古人に劣るようであるが、はつきりした差があるとは思はれぬ。また豫報では内背幅が頬幅に對して相對的に増大してゐるよう考察したが、滿洲族の内背幅は頬弓幅に應じて狭まつてゐて、示數に於て蒙古人との間に差はない。

滿洲族の頭部は、額幅ひろく隆起し、後頭部稍々扁平に傾き、頭髮は多少柔かい。顔は頬弓幅が小さいことから理解出来るように、蒙古人に較べて幅狭く、Pösch の型式で五角形といふものが最も多く、これについて幅の狭い卵圓形と稱すべき形のものが多い。鼻梁は眞直なものが大部分であるが、一般に凸彎曲の傾向があり、

著しく屈曲してゐるものもある。反對に凹彎曲するものも、ごく少數ではあるが存在する。

上眼瞼は一重のものが多いが、二重のものも相當多くなつてゐて、内眥に所謂蒙古襞と稱するものは9割において痕跡もない。Baelz¹⁾が日本人について記載したこの蒙古襞乃至は *Epicanthus* は、蒙古人にて決して多くないことを以前に示摘したが、滿洲族では一層この形が稀である。

虹彩の色は褐色で、Martin-Schultz の色彩表で (13) 乃至 (15) にわたるものが大部分である。しかし (15) より濃いものも多少ある一方には、内側方は褐色であるが、外側方は灰綠色を呈する縞状のものがあり、このような明色の傾向は、ブリヤートに多いことを示摘したことがある。ブリヤートのように明瞭ではないが、明色の影響は滿洲に及んで居ると云ひ得やう。咬合では鉗子咬合は少く、銚狀咬合が多いが、その上下の門齒のすれは少く、上顎門齒が前方に突出すること馬來族の如きものは見られぬ。

以上、滿洲人について述べたところは、蒙古人や北支那人と近い関係にあるが、身長は二次的に大きくなつたように思はれ、頭長短縮し、頭幅はアジア内陸諸民族共通の大いさを保ち、頭示数は全人類中最大を示し、顔高も蒙古、トルコと同じく高いが、顔幅せまく、従つて顔示数は大きくなる。特に頭幅が大きいにも拘らず、顔幅は小さくなるから、頭顔示数は小さくなる。このような小さい頭顔示数は西トルコからヨーロッパに特有である。一般には體毛生は著しく

ないが、稀に著しいものもあることも注意されてよからう。

吉林の回教徒が滿洲族と同じ體型をもつことは、滿洲族に回教信者が多いことから云つて當然であるが、旅順の支那人も滿洲族と區別出來ぬことは注意すべきであらう。滿洲在住の支那人の體型が、その出身地の山東や河北とはちがつて來てゐることは、多くの報告から氣づかれることであり、特にこの問題をとり上げて、今村等は人類學雜誌 57 卷 7 號 (昭和 17 年) に報告してゐる。今この滿洲烏拉街の山東出身の男子 585 例の平均値を二三列挙して見ると、身長 $163.25 \pm .22$ cm 頭長 $179.67 \pm .29$ mm 頭幅 $154.92 \pm .24$ mm 頭耳高 $124.49 \pm .29$ mm 頭示數 $86.36 \pm .18$ 顴骨弓幅 $141.02 \pm .21$ 頭顔示數 $91.10 \pm .13$ 顔高 $122.25 \pm .27$ 鼻高 $50.54 \pm .15$ mm 鼻幅 $37.28 \pm .10$ mm 鼻示數 $74.12 \pm .28$ である。その身長は著しく低下し、頭幅は餘り大きくならず、此等の點では旅順の支那人の方が現在の滿洲人一般の體型に近い。旅順は支那人にとつて最も歴史の舊い滿洲移住地であることを考う可きである。

文 献

- (1) Y. Yokoh, Beitr. zur phys. Anthrop. d. Mongol, 1943
- (2) 荒瀬, 小濱, 田邊, 高牟禮, 朝鮮醫誌 24 卷 1 號 9.
- (3) Baelz, E., Mitt. Deutsch. Ges. f. Natur- u. Völkerkunde Ostasiens. H. 28, 32; 1883, 1885.